

中学生の「税についての作文」優秀作品
「新潟県南魚沼地域振興局長賞」

少子高齢化社会における税

十日町市立中条中学校 3年
滝沢 怜奈

みなさんは「税」と聞くと、どのような印象を持ちますか。それは、各々の立場によって大きく異なると思います。実際、現在の日本では、様々な種類の税金があり、私たちの暮らしに深く関わっています。変化していく社会状況の中でどのような税を使用していくことが重要なのか考え、今ある問題や状況に合わせた政策をとっていくことが持続可能な社会を築いていくためには必要不可欠だと考えます。

少子高齢化。これは、日本の大きな問題です。この問題は様々な場面に影響を与えており、税金も例外ではありません。税負担は現役世代と呼ばれる15歳から64歳までの働き盛りの世代が軸となる部分を担っています。ですから、高齢者が増え、働き手が減ると現役世代の人、一人一人の負担が大きくなります。また、高齢者にとっても年金が減ってしまう、社会保障の満足のいく充実ができなくなるという可能性があります。このことから、未来を見据えた納税を行い、世代によっての税負担の差が少なくなることが少子高齢化社会における、現在の課題だと言えます。

平成元年から日本では消費税が導入されました。この政策には負の感情を抱く人もいますが、私はプラスの面が大きいように感じます。消費税は私たちにとって一番身近な税だと思います。例えば、買い物をする時や外食する時などに消費税が発生しています。このような状況であれば、私たちのような学生や仕事を退職した人でも税金を納めることができます。また、現在の日本の歳入額で一番多いのが、消費税です。そのため、働き手が少なくなる将来の社会にとって、世代関係なく納めることのできる消費税は生活を支える役割を担うと思います。そして、現代社会にとってメリットの大きい税だと考えます。

私は何事もウィンウィンな関係というのが大切だと思っています。そうしないといつか何かが崩れてしまうからです。税金もその一つで個人と社会をつないでいます。国民全員が平等に納めないと、将来世代の負担となってしまうかもしれません。豊かな暮らしが成り立たなくなるかもしれません。それらのことを心に留め、誰かのために、未来の自分のために税金を正しく納めることが全ての基盤になります。人は支え合って生活しています。その考え方をすると、少しは「税」というものを明るく捉えられるのではないのでしょうか。自分の立場を考えて今できることを一人一人が社会に貢献していくことが何よりも大切なのです。